

新中期経営計画 (2010～2014年度)

2010年3月8日
株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ

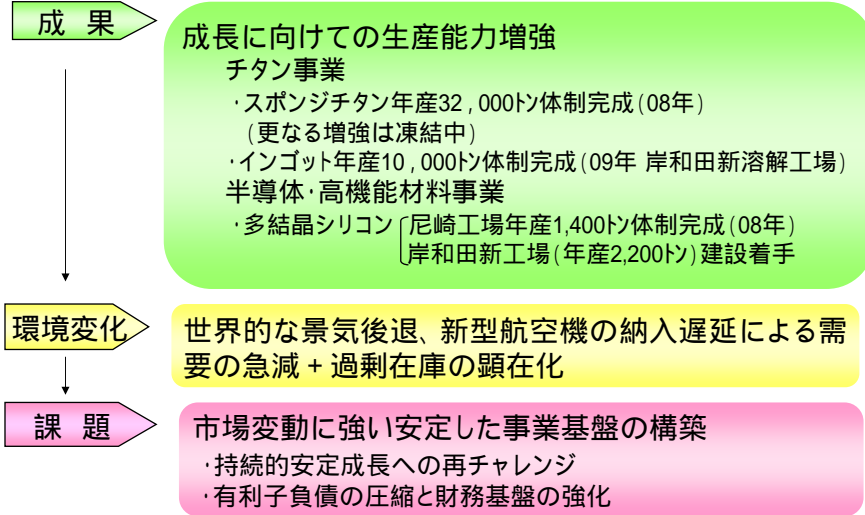
1

目次

- 現中期経営計画(07～09)の成果と課題 (P.3)
- 市場環境の見通し (P.4～P.12)
- 新中期経営計画(10～14)事業方針 (P.13)
- 分野別事業展開 (P.14～P.20)
- 共通課題と取組み (P.21～P.24)
- 経営指標 (P.25～P.29)

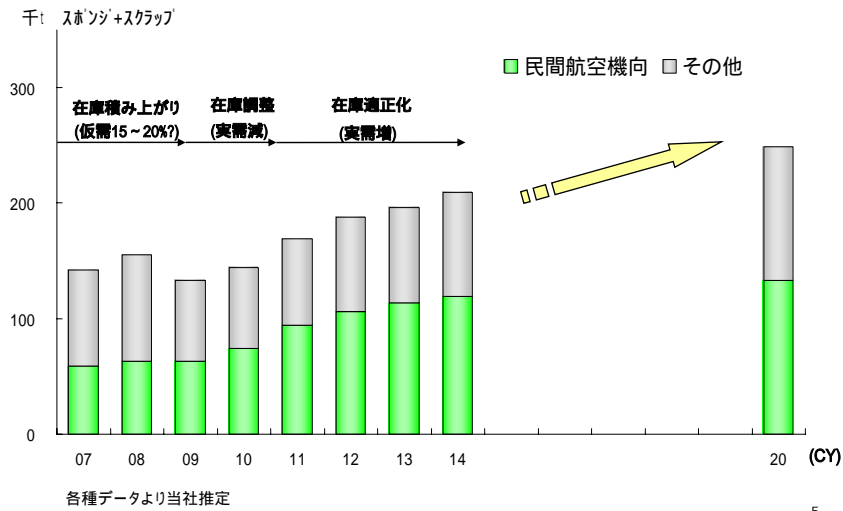
2

現中期経営計画(07～09)の成果と課題

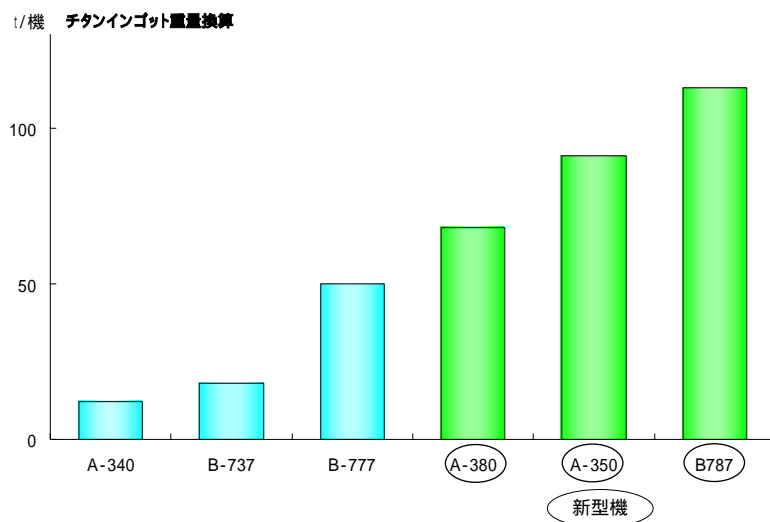


市場環境の見通し

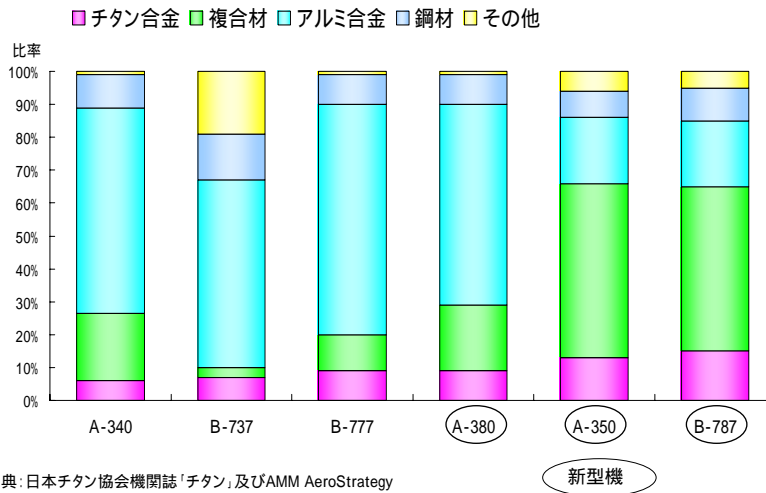
世界のチタン需要見通し(当社推定)



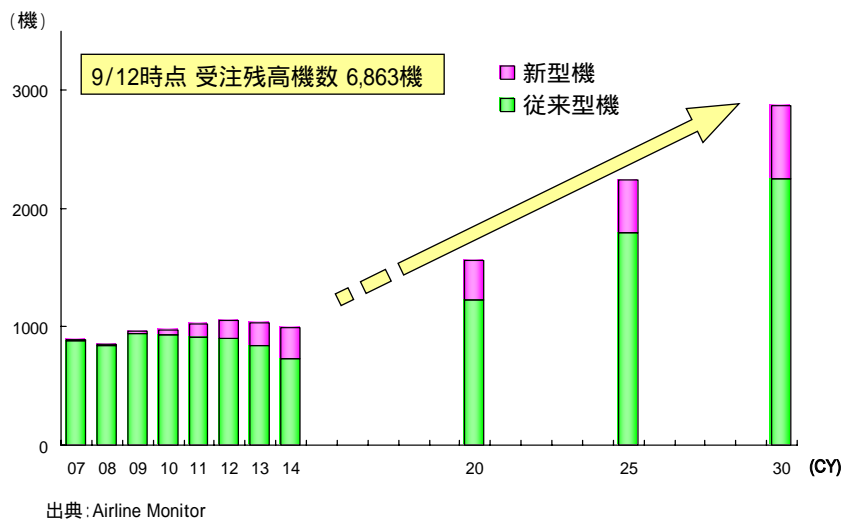
航空機別チタン使用量比較(当社推定)



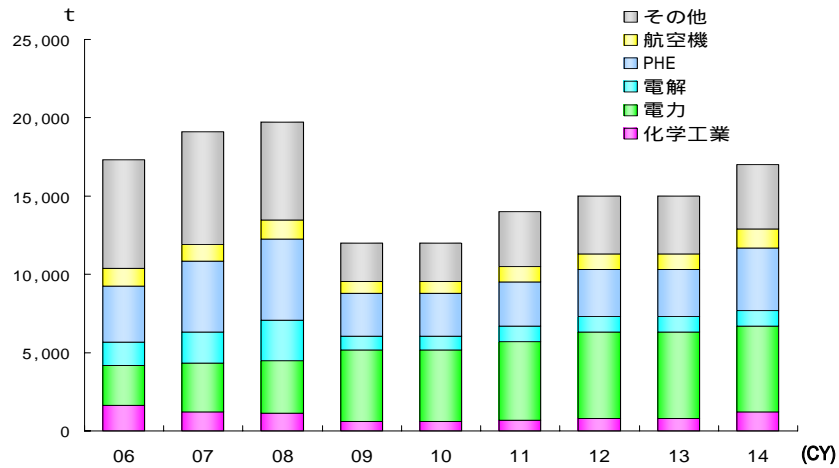
航空機別使用材重量比率



ボーイング/エアバス納入計画

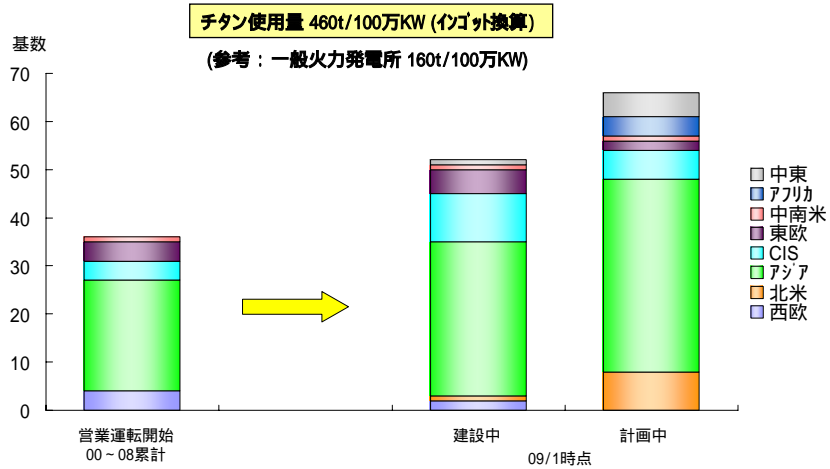


国内展伸材用途別需要見通し



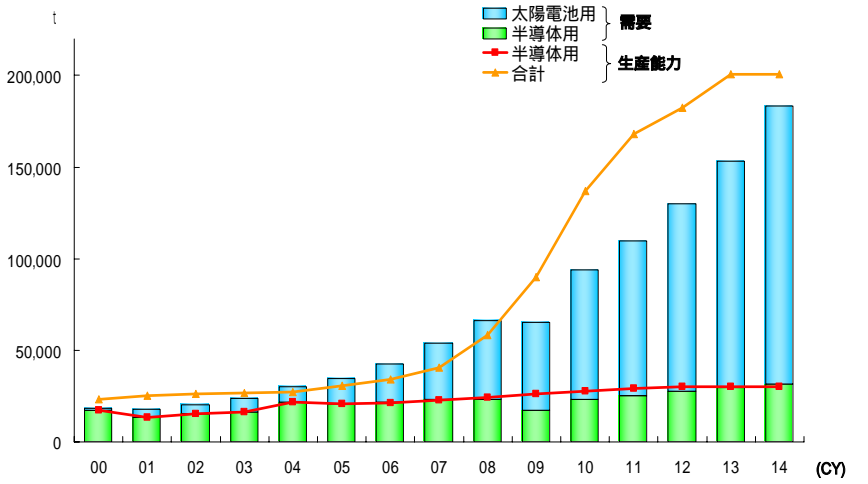
出典: 日本チタン協会 (~09)、当社推定(10~)

原子力発電所建設計画



出典: 日本原子力産業協会

世界の多結晶シリコン需給見通し(当社推定)



成長が見込まれる高機能材料分野

成長分野

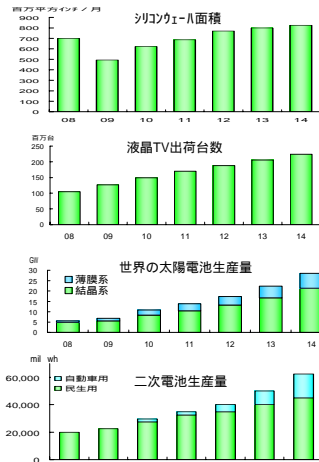
- ターゲット材 (半導体用)
- ターゲット材 (液晶用)
- 封止材 (太陽電池バックシート用)
- 負極材 (二次電池用)



OTC製品群

- 高純度チタン
- TILOP
- SiO

市場動向



新中期経営計画(10～14)事業方針

- ・チタン、シリコンを事業の両輪に持続的安定成長を目指す
- ・将来に向け第3の事業育成に注力

長期契約をベースとした安定売上・収益の確保
新鋭設備のフル活用によるコスト・品質競争力の強化
第3の事業育成

収益目標	ROA	15～20%
	(EBITDAマージン)	35～40%

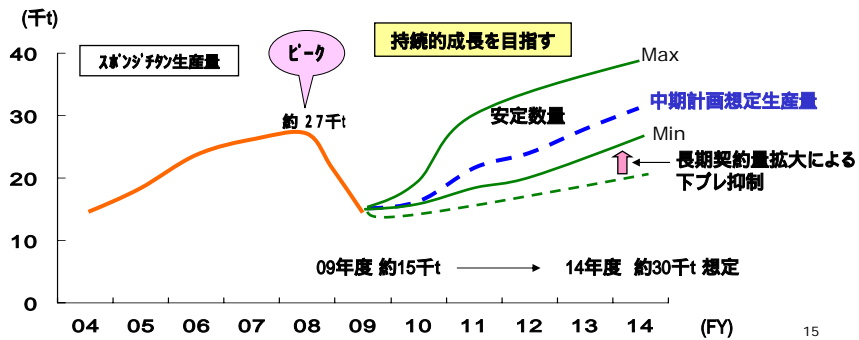
13

分野別事業展開

14

販売方針

長期契約量拡大による安定売上・収益の確保
 安定した価格契約スキームの構築
 需要上ブレ時の拡販機会の確実なキャッチ



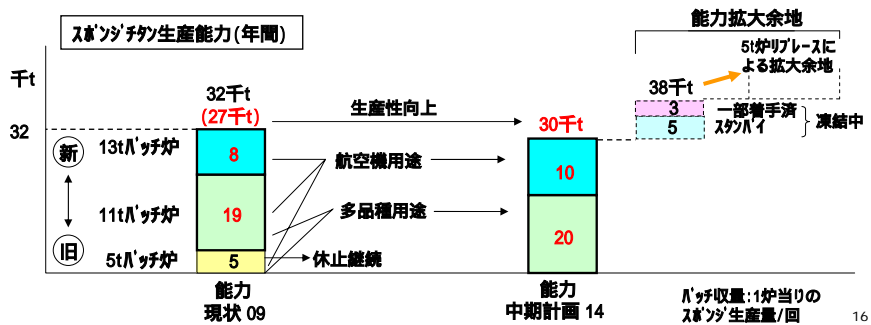
15

競争力強化(スポンジチタン)

製造技術改善による生産性向上

- ・世界最大級13tハッチ炉のフル活用
- ・ライン別品種造り分け整理・統合

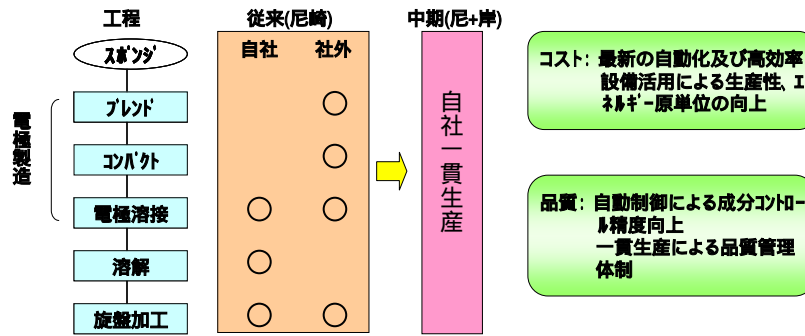
コスト競争力
品質競争力の強化



16

競争力強化(インゴット)

岸和田新設備を活用した一貫生産体制によるコスト
品質競争力強化

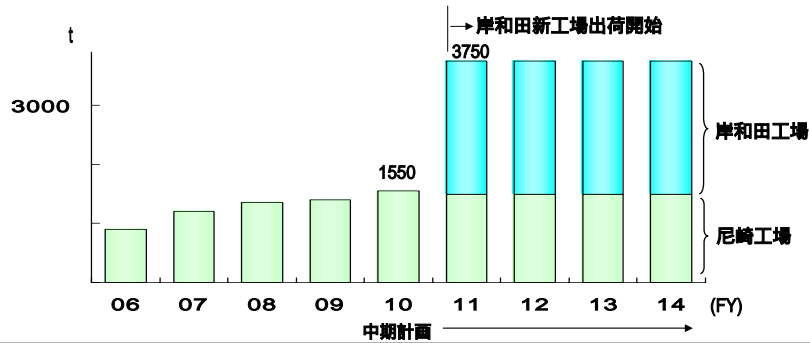


* 合金インゴットは顧客受託溶解をベースとする。

17

販売方針(多結晶シリコン)

半導体向け長期契約をベースにフル生産・販売を継続
岸和田新工場は2011/4出荷開始



18

競争力強化(多結晶シリコン)

高品質(11N=1レブン9)の確保と生産性向上の両立

尼崎工場

- ・操業改善による生産能力拡大
年産1,400t 1,550t(+10%)

岸和田工場

- ・安定立上げによる早期戦力化
- ・大規模高効率プラントによる生産性向上

高機能材料事業

開発資源の集中投入により 第3の事業として育成

ターゲット材向け高純度チタンの競争力強化(半導体用ターゲット材)
製造・技術開発体制の強化による高品質化ニーズへの対応

TILOPの拡販

医療用射出成型材 用途拡大 → 液晶用ターゲット材
半導体用ターゲット材

SiO₂の用途拡大

用途拡大と新製品開発促進

包装用封止材 用途拡大 → 高機能封止材(太陽電池用バックシート用)

新製品開発 → 二次電池用負極材

売上高倍増 20億円 40億円(09 14)

共通課題と取組み

コスト合理化・生産性向上

- ・ベース操業技術の改善
- ・既に完成もしくは実施中の増強新設備の効率的活用

億円

コスト 合理化	14年度合理化(対09)		
	ベース改善	新設備活用	合理化計
チタン事業	13	8	21
半導体・高機能材料事業	7	12	19
計	20	20	40

生産性 向上	14年度生産性向上(対09)	
	スポンジチタン	6%up
チタン溶解	12%up	
多結晶シリコン	10%up	

環境対応

環境保全を最重要課題の一つとしてとらえ、地域との調和から地球規模まで、環境汚染防止、資源保護の取組みを推進

省エネの取組み

・エネルギー原単位低減 10～14(5年間)で 14%

省資源への取組み - 3R活動(Reduce, Reuse, Recycle)の推進

省エネ投資(累計): 13億円
環境投資(累計) : 14億円

コスト低減効果: 8億円/年

23

研究開発

・新中期5ケ年で50億円の研究開発費を投入

・開発資源の選択と集中

生産技術改善・開発

・コスト・品質競争力強化、省エネ・環境対策促進

製品開発

・SiOの用途拡大を中心として高機能材料の製品開発を加速

新製錬プロセスの開発は、要素技術の開発まで完了した。実機化可否判断を得るには、今後より多くの時間と人・物・金が必要となる。新中期経営計画では研究開発資源の選択と集中を実施して行くため、新製錬プロセスの開発は凍結することとした。

24

経営指標

業績予想

	09年度 見通し	→	(億円) 14年度 計画
チタン	188		320
半導体・高機能材料	130		300
売上高	318		620
営業利益	13		145
経常利益	2		140
当期利益	1		80
総資産額	939		800
借入金	374		100
ROS (売上高経常利益率)	0.6%		23%
ROA (総資産経常利益率)	0.2%		17%
EBITDAマージン	3.8%		37%
為替レート的前提	93円/\$		90円/\$

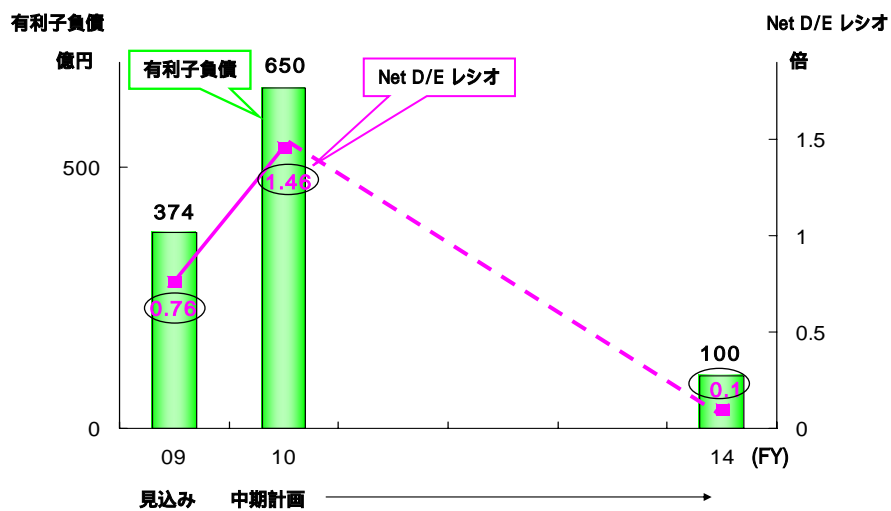
キャッシュフロー (5ヶ年)

(億円)			
営業キャッシュフロー	800		
設備投資キャッシュフロー	470	}	設備投資 420
			未払増減 50
差引フリーキャッシュフロー	330		



負債圧縮
株主還元拡大

有利子負債とD/Eレシオ



設備投資額と減価償却費

